

令和 5 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立三稜中学校

令和 6 年 3 月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

- 学校規律の徹底を図ることにより、学校生活における安心・安全を確保し、落ち着いた状況で日々の学習活動を行っている。しかし、集団生活になじめない不登校生徒が増えており、日常の家庭訪問や時間をかけたきめ細やかな対応が必要である。
- 特別支援学級在籍で学校になじめず不登校傾向にある配慮の必要な生徒もあり、個に応じた指導を充実させている。
- 安心して成長できる環境が整った状態を維持しつつ、いじめについては「いつでも、どの生徒にも、どの学校においても起これ得る」という認識のもと、学校体制の連携を強化して早期発見、早期解決に全力で取り組んでいく。
- 校内調査において「将来の夢や目標を持ってますか」の肯定的な回答が令和4年度は、4ポイント減少している。将来の夢、目標を持つ意義や、将来に向けての前向きな展望を考える機会を多くつくり、キャリア教育や進路学習のさらなる充実が必要である。
- 確かな学力の向上のために、ICT機器を活用した教育活動の推進、授業改善を進めており、生徒の学習意欲の向上がみられる。今後も教職員の積極的な授業改革に対する意欲の高揚を図り、「わかる授業」を研究し実践に移していく。
- 令和4年度の中学生チャレンジテストの対府比平均を同一母集団で比較すると、3教科・5教科とも向上がみられる。校内調査における「まじめに授業に取り組んでいる」の肯定的回答は、学年が上がるごとに高くなっている、3年生は83%である。また「自分の考えをまとめたり、発表したりすることができますか」の質問の肯定的な回答は82%であり、毎年向上している。しかし、学年や教科によって差があるため学習意欲をさらに高める工夫が必要である。
- 英語科における授業実践に合わせて、今年度も英語検定の校内団体受検会場として91名が受検し、3級以上の受検者は40名で、そのうち2級1名、準2級2名、3級20名の合格であった。今後も、生徒に目標を持たせ、英語の4技能の向上を進めていく。
- 令和4年度の全国体力・運動能力・運動習慣等の調査結果については、体力合計点は、男女とも全国平均を上回っている。しかし、男女とも反復横跳びと20mシャトルランの記録が全国・大阪市平均を下回っており、敏捷性・持久力に課題が残る。
- 教員の勤務時間に関する基準1(時間外勤務が週45時間・年間360時間を超えない)を満たす教職員の割合は増えているが、今後も業務のスリム化、勤務時間を意識した働き方が必要である。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育環境の推進】

- 年度末の校内調査における「学校生活は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を毎年、前年度より増加させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の調査の「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を75%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の各教科の標準化得点(全国平均を100とする)を、令和3年度より向上させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点を、令和3年度より5ポイント向上させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の全国学力・学習状況調査の「学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の項目について肯定的な回答を95%以上にする。
- 令和7年度には、ゆとりの日については、週1回以上設定する。  
学校閉学日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する
- 令和7年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を増加させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通年度目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- ① 年度末の校内調査における「学校生活は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を87%以上にする。
- ② 年度末の校内調査における「命や人権の大切さについて考える学習がある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。
- ③ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、67%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通年度目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を55%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。

#### 学校園の年度目標

- ① 全国学力・学習状況調査の各教科の標準化得点(全国平均を100とする)を、昨年度より向上させる。
- ② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点を、昨年度より向上させる。
- ③ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、食べていないと回答をする生徒の割合を5%以下にする。
- ④ 年度末の校内調査における「授業はわかりやすく楽しいですか」に対して、肯定的に回答する割合を85%以上にする。

## 【学びを支える教育環境の充実】

### 全市共通年度目標（中学校）

- 校内調査で「学習用端末（タブレットパソコン）を活用（学活・教科指導・家庭学習等）する機会がある」に対して最も肯定的な回答をする割合を70%以上にする。
- 働き方改革推進プランに掲げる「教員の一人当たりの平均時間外勤務」を校種別（大阪市立中学校）の平均時間以下にする。

### 学校園の年度目標

- ① 年度末の校内調査において、「図書室を利用したことがありますか」に対して、「ない」と回答する割合を25%以下にする。
- ② 年度末の校内調査において、「学校の様子をホームページ・通信等で情報公開をよく行っている」に対して、肯定的に回答する割合を95%以上にする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

### 【安全・安心な教育の推進】

- 学校規律の徹底を図り、学校生活における安心・安全を確保し、落ち着いた状況で日々の学習活動を行うことができている。不登校生徒については、別室登校や関係機関とのつながりにより改善傾向があるものの、今後も日常の家庭訪問等きめ細やかな対応が必要である。
- いじめについては、学校体制の連携を強化して学校全体で取り組んでいる。いじめアンケートや教育相談の実施により早期発見、早期解決につながっている。研修等を通じて、教職員のいじめを許さない意識を向上させるとともに生徒の心への働きかけが重要となる。
- 今年度は2年生で職場体験を再開して、将来に向けて考える良い機会を設けることができた。今後も、将来の夢、目標を持つ意義や将来に向けての前向きな展望を考える機会を多くつくり、キャリア教育や進路教育のさらなる充実を図る。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 全国学力・学習状況調査及び中学生チャレンジテストでの平均正答率の上昇や大阪市英語力調査（GTEC）の結果から学力の向上は見られる。また、問題に粘り強く取り組めるようになり平均無回答率の改善につながった。
- 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点は男女とも全国、大阪市平均に対して下回る結果であった。特に男子は50m走と立ち幅跳び、女子は長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳びに課題がある。運動習慣等調査での1週間の総運動時間が420分以上の生徒の割合は男子は全国平均並みで、女子は全国平均より4%以上高い。しかし60分未満の生徒の割合が、男女とも全国平均より高く2極化傾向が見える。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 各教科で学習者用端末を利用しての学習活動は定着しつつある。授業時間外の自主学習や課題等でも活用したり、プレゼン用ソフトを利用した発表活動やインターネットを使い調べ学習を行ったりとICT機器の活用の幅が広がっている。
- アンケート結果から、図書室を利用したことがない生徒の割合が昨年度よりわずかに減少している。朝の読書、委員会活動等を通じて、読書への興味、関心の高まりが伺え、効果的に読書活動の推進がすすんでいると考えられる。
- 「教員の一人当たりの平均時間外勤務」は昨年度より改善されているが、校種別（大阪市立中学校）の平均時間と比較するとまだ2時間ほど多い。今後も業務のスリム化を工夫していく必要がある。

## 大阪市立三稟中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通年度目標（中学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</li> <li>○ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</li> <li>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 年度末の校内調査における「学校生活は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を87%以上にする。</li> <li>② 年度末の校内調査における「命や人権の大切さについて考える学習がある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。</li> <li>③ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、67%以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>いじめは、いつでも、どの生徒にも、どの学校においても起こり得るという認識のもと、早期発見、早期解決に取り組む。</p>	B
<p><b>指標</b> いじめ調査を学期に1回以上実施し、組織的に解決に取り組む。</p>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>生徒の現状と課題に即した教育相談活動を充実する。</p>	
<p><b>指標</b> 年間2回以上の教育相談週間を設けるとともに、タブレットパソコンの相談機能の活用や1日に1回以上、心の天気の活用を進める。</p>	B
<p><b>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b></p> <p>人権学習に計画的・系統的に取り組み、人権感覚の向上と互いに認め合う集団づくりに取り組む。</p>	
<p><b>指標</b> 学校・学年の課題に即し、年間4分野以上の人権課題について実践を行う。</p>	B
<p><b>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b></p> <p>3年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育に取り組み、学年ごとに子どものニーズに合わせ将来について考える教育に取り組む。</p>	
<p><b>指標</b> 将来の生き方について考える学習があると肯定的に回答する割合を高める。</p>	B
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b></p> <p>感動する心や豊かな心を育む行事・取り組みを実施する。</p>	
<p><b>指標</b> 芸術鑑賞や体験学習、講演会をそれぞれ1回以上実施する。</p> <p>人が困っているとき、進んで助けていると肯定的に回答する割合を高める。</p>	B
<p><b>取組内容⑥【基本的な方向2 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>大阪市部活動指針に基づき、運動部や文化部の活動を充実させる。</p>	
<p><b>指標</b> 部活動に意欲を持って取り組み、「部活動は活発で楽しいですか」の肯定的回答の割合を高める。</p>	B

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 【年度目標】について

#### 全市共通年度目標（中学校）

- 今年度の生徒アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の最も肯定的回答は76%であった。引き続き、いじめを許さない学校づくりを進める。
- 今年度の不登校生徒の在籍比率は8.1%であった。今後も学校全体で組織的に対応し、不登校生徒とのつながりを大切にした取り組みを継続させる。
- 前年度不登校で本年度改善した割合は、12月現在で16.7%と増加している。今後も別室登校やサテライト等の通所等、個に応じた対応が必要である。

#### 学校園の年度目標

- ① 今年度の生徒アンケートの「学校生活は楽しいですか」の肯定的回答は86%であった。学校行事を中心に生徒が主体的に取り組み充実した学校生活が送れるように引き続き計画していく。
- ② 今年度の生徒アンケートの「命や人権の大切さについて考える学習がある」の肯定的回答は、96%であった。今後も反戦平和について考える機会を設定したり、道徳の授業をはじめ、人権意識の醸成に向けての取り組みを実施したりしていく。
- ③ 今年度の生徒アンケートの「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答は67%で目標値に達した。今年度は2年生で職場体験を再開して、将来に向けて考える良い機会を設けることができた。今後も進路学習の充実を図り、取り組んでいく。

### 【取組み内容】について

- ① 週1回いじめ対策委員会を実施するなど、きめ細かな情報共有を行い組織的な対応を実施した。定期的にいじめ調査を実施するだけでなく、今後も日々の生活指導においていじめにつながるようなことはないか注意深く調査し指導していく。
- ② 教育相談は予定通り実施できた。毎日心の天気を活用し、生徒の様子を複数の教職員でチェックすることで生徒の変化に迅速に対応することができた。また、不登校生徒対応教室を設置し、不登校生徒の学びの場を確保し、学びたいと思ったときに学べる環境を整えることができた。
- ③ おおむね年間計画にそって実践を行うことができた。生徒アンケートの「命や人権の大切さについて考える学習がある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は目標を上回る96%であった。行事などさまざまな取り組みの中で、人権学習の時間をどう効果的に確保していくかが今後も課題である。
- ④ 1年生では職業調べをしてからS Pトランプを使った出前授業を行い、自己を知り2年生で実施予定の職場体験に向けての準備を行った。2年生は職場体験を実施することができ、3学期にはハローワークから講師を招き、進路講話の実施を予定している。3年生は出前授業の実施や進路学習（面接指導・校長面接）を行い、自己の進路実現に向けて進んでいる。  
目標の67%は達成することはできたが、なかなか自身の将来について考えられない生徒や前向きになれない生徒に対するアプローチについて考えていく必要がある。
- ⑤ 芸術鑑賞会、平和登校日では人権や平和に関する講演を実施した。またそれぞれの学年において、校外学習等で体験学習を実施した。88%の生徒が「人が困っているときに進んで助けている」と回答している。来年度も芸術鑑賞会、平和学習、体験学習をバランスよく実施し、生徒の心の育成に取り組んでいく。
- ⑥ すべての部活動において複数の顧問を配置し、プレイヤーズファーストの名のもとに生徒個々の状況に応じた指導を行うことができた。生徒アンケートの「部活動は活発で楽しいですか」の肯定的回答は昨年度より若干下がったが、今年度は生徒主体で小学校への部活動体験も実施したり、運動会での部活動対抗リレー等での活躍の場を設定したりすることができた。

#### 今後への改善点

- 不登校生徒について、学級担任だけでなく学校全体で積極的に取り組み、引き続き不登校の改善および解消に向けての体制や指導を充実させる。

## 大阪市立三稟中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p><b>全市共通年度目標（中学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。</li> <li>○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</li> <li>○ 大阪市英語力調査CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を55%以上にする。</li> <li>○ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上する。</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 全国学力・学習状況調査の各教科の標準化得点(全国平均を100とする)を、昨年度より向上させる。</li> <li>② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点を、昨年度より向上させる。</li> <li>③ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、食べていないと回答をする生徒の割合を5%以下にする。</li> <li>④ 年度末の校内調査における「授業はわかりやすく楽しいですか」に対して、肯定的に回答する割合を85%以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各調査やテスト等の結果を分析し、学習サポーターの活用や、放課後・テスト前学習などの補充学習により、基礎・基本の定着に取り組む。</p>	B
指標 全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテストの平均無解答率を減少させる。	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体育の授業を中心に、筋力・巧緻性・瞬発力等を高める運動を実施する。</p>	C
指標 全国体力・運動能力の各種目の平均値を向上させる。	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業研究や相互授業参観などを実施し、教員の授業力向上に取り組む。</p>	A
指標 全教員が研究授業を年間1回以上実施するとともに、1回以上授業を参観する。	
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>C-NETやデジタル教科書、デジタル教材の活用により、4技能すべての力の向上を図る。</p>	A
指標 大阪市英語力調査(GTEC)におけるCEFR-Jの評価を4技能すべてA1レベル以上の英語力を有する中学3年生の割合を高める。	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>「食育通信」や「保健だより」などを通し、食育を推進する。</p>	B
指標 每月1回以上、「食育通信」や「保健だより」を発行し、特に朝食の必要性について生徒の意識を向上させる。	
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>生活アンケートを実施し、生徒の生活リズムなどの状況を把握する。</p>	B
指標 生活アンケートを年間1回以上実施し、結果を生徒・保護者へ周知する。	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 【年度目標】について

#### 全市共通年度目標（中学校）

- 今年度の生徒アンケートの「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができますか」の最も肯定的回答は38%である。各教科の授業や学校行事に向けての学級での取り組みを通じて、話し合いや発表の場面を設定し、考えを深める活動を行っている。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年比較すると現3年生は国語0.93→1.02→1.03、数学1.00→1.01→0.99、現2年生は国語0.99→1.01、数学1.04→1.07で推移した。現1年生は国語1.02、数学1.00であった。
- 大阪市英語力調査（GTEC）の結果、CEFR A1レベル相当の生徒の割合は59.6%であり、昨年度と同等程度で目標値を超えていている。
- 今年度の生徒アンケートの「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の最も肯定的回答は55%であった。引き続き、体育的活動を通じて、スポーツや運動をするとの楽しさを感じられる取り組みの充実を図る。

#### 学校園の年度目標

- ① 全国学力・学習状況調査の標準化得点（全国平均を100とする）の昨年度から今年度の推移は、国語：98→100、数学：100→99であった。平均無解答率について、今年度は国語で、全国平均を下回り改善が見られた。
- ② 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点は男女とも全国、大阪市平均に対して下回る結果であった。特に男子は50m走と立ち幅跳び、女子は長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳びに課題がある。
- ③ 今年度の生徒アンケートの「朝食を毎日、食べていますか」の最も否定的な回答は5%であり、引き続き、日々の給食での指導や食育通信、保健だよりの発行等により食育教育をすすめる。
- ④ 今年度の生徒アンケートの「授業はわかりやすく楽しいですか」の肯定的回答は82%であった。今後も授業アンケート、校内研究授業、研究協議を計画的に実施し、授業改善に役立てる。

### 【取組み内容】について

- ① 校内のテストにて問題別での正答率の分析や放課後の学習会等の実施により全国学力・学習状況調査および3年生チャレンジテストの平均無回答率の改善につながっていると考えられる。
- ② 全学年で準備運動に主に瞬発系・筋力系のトレーニングを取り入れて運動能力の向上に努めた。しかし、今年度全国・大阪市平均をほとんど下回っていた。運動習慣がない生徒のために、基礎から丁寧に教えることを心掛けていく。
- ③ 全員年1回の研究授業と授業参観、研究協議を行った。5年目以内の教員を中心に、スクールアドバイザーの指導を受け、授業改善を行った。今後も引き続き、授業力向上に取り組む。
- ④ 大阪市英語力調査（GTEC）の結果、CEFR A1レベル相当の生徒の割合は59.6%であった。スピーキングにおいては、前年度の平均より7.6ポイント上回っており、無解答の生徒はほとんどいなかつた。
- ⑤ 毎月食育だよりと保健だよりを発行し、保健だよりには毎月朝食の必要性について掲載した。1年生においては区役所と連携し、夏休みの課題で朝食づくりにチャレンジしてもらった。
- ⑥ 11月に全校生徒を対象とした生活アンケートを実施した。結果について、生徒保健委員が学校保健委員会で発表を行った。生徒や保護者へは保健だよりの臨時号を作り、配布した。

#### 今後への改善点

- 今年度の各調査等での結果分析では、一定の学力の向上が見られたが、今後も課題に応じ分析を行い学力向上につなげていく。
- 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、体育授業を中心に体力向上に向けた取り組みを強化する。

## 大阪市立三稟中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p><b>全市共通年度目標（中学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内調査で「学習用端末（タブレットパソコン）を活用（学活・教科指導・家庭学習等）する機会がある」に対して最も肯定的な回答をする割合を70%以上にする。</li> <li>○ 働き方改革推進プランに掲げる「教員の一人当たりの平均時間外勤務」を校種別（大阪市立中学校）の平均時間以下にする。</li> </ul>	B
<p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 年度末の校内調査において、「図書室を利用したことがありますか」に対して、「ない」と回答する割合を25%以下にする。</li> <li>② 年度末の校内調査において、「学校の様子をホームページ・通信等で情報公開をよく行っている」に対して、肯定的に回答する割合を95%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育デジタルトランスフォーメーション】 ICTを活用した、主体的・対話的・深い学びにつながる授業研究に取り組む。</p> <p><b>指標</b> 日々の学校生活でICT機器を活用できているという項目で肯定的な回答する割合を高める。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 業務の効率化や外部人材により教職員の業務軽減を図る。</p> <p><b>指標</b> 月に1回以上、勤務時間を点検し、時間外勤務を前年度以下にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 図書館を環境整備するとともに、定期的に本紹介のポスターや図書などよりを発行し、読書への興味を高める。</p> <p><b>指標</b> 図書室を利用したことがない生徒の割合を下げる。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協力した教育の推進】 HPの活用や学年・学級通信を定期的に発行し、学校の情報を積極的に発信する。</p> <p><b>指標</b> ホームページの更新回数を前年度以上にする。</p>	A

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 【年度目標】について

#### 全市共通年度目標（中学校）

- 今年度の生徒アンケートの「心の天気や授業で ICT を活用する機会がありますか」の最も肯定的  
回答は 70 %と目標値に達した。授業時間外の課題等でも活用し、自主学習にも役立っている。  
また、プレゼン用ソフトを利用した発表活動やインターネットを使い調べ学習を行った。
- 「教員の一人当たりの平均時間外勤務」は昨年度より改善されているが、校種別(大阪市立中学校)  
の平均時間とを比較するとまだ 2 時間ほど多い。

#### 学校園の年度目標

- ① 今年度の生徒アンケートの「図書室を利用したことがありますか」の「いいえ」の回答は 20 %  
であった。年度目標を達成できており、朝の読書、委員会活動等を通じて、読書への興味を高め  
ていることが伺える。引き続き、図書室内を整備して読書活動の充実を図る。
- ② 今年度の保護者アンケートの「学校の様子を学校だより、HP、学年、学級通信等で情報公開を  
よく行っている」の肯定的回は 96 %と目標以上である。日々の学校生活の様子をホームページ  
にて更新し、学校だよりや学年だよりの毎月発行も継続していく。

### 【取組み内容】について

- ① 「心の天気」をはじめ、毎日 ICT 機器を活用している。生徒アンケートの「心の天気や授業で  
ICT を活用する機会がありますか。」において肯定的な回答が 93 %であった。
- ② 住吉区補助スタッフの活用し、教員の業務軽減に努めた。各種アンケート調査をオンライン化  
し集計業務を軽減した。教員の平均時間外勤務時間は昨年度より改善されたが、今後も日々の  
業務のスリム化に工夫が必要である。
- ③ 図書館の環境整備を行うと同時に、文化委員を中心に読書への興味高める活動を行い、年度当  
初の目標を達成した。今後も引き続き取り組みを続けていく。
- ④ 今年度のホームページは 2 月までで 780 回以上更新し、昨年度同期間の 730 回を超えた。また  
学校だより等の発行により学校の様子を広く発信した。

### 今後への改善点

- 日々進化している ICT について、教職員も有効に使いこなせるように研修等によりスキルアップ  
が必要である。
- 働き方改革推進プランに沿って、教員の時間外勤務について引き続き改善に取り組む。

・重点		令和5年度 主体的・対話的・深い学びのある授業づくり（目標）
	教科	各教科の目標
1	国語	・漢字の読み書きの能力を高め、基礎的な内容の定着をはかり、国語力の向上をはかる。
2	社会	・基礎的な知識、技能の定着を図り、言語活動や発表活動を通して思考力、判断力、表現力を醸成する。また、ICT 機器を活用し、効果的、効率的な授業展開を工夫する。
3	数学	ICT や学習プリントを活用し、基礎的な計算力と数学的思考に関する問題の正答率を向上させる。
4	理科	・実験や観察、演示実験などの体験活動を通して、「思考・判断・表現」の能力向上をはかる。 ・小テストや宿題を定期的におこない、「主体的に学習に取り組む態度」を養うきっかけをつくる。 ・基本問題に加えて、発展的な問題演習を解く時間を作ることで「知識・技能」の定着をはかる。
5	音楽	・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、豊かな心を培う情操教育の充実を図る。 ・毎時間、明確な学習目標を設定し、授業の最後には各自の自己評価に取り組み、次に繋がる授業の展開を目指す。
6	美術	学習プリントやワークシートを用いた学習で、基礎的な知識・技能の定着を図る。 鑑賞と表現を通して、創造の喜びを体験させる。
7	体育	・体育委員のリーダーシップを育み、生徒主体の授業を展開する。 ・一人一人の基礎体力を向上させる。 ・前向きに取り組み協力し合う集団を目指す。
8	技術・家庭	生徒が興味・関心を持って授業に対して意欲を高められるよう、教材の精選を行ない、視覚教材などを活用し、タブレット端末を利用しながら知識理解を深め、実践につなげることで生きる力を育む。
9	英語	C-NET や ICT 機器の活用により、英語への関心を高め、4 技能(Listening, Reading, Speaking, Writing)の向上を図る。
10	道徳	・教材を通して、人間としての生き方を考え主観的な判断のもとで行動し、自立した人間性を培う。 ・他者の意見を聞く機会をもうけ、多様性を学び理解し、よりよく生きるために道徳性を身につける。
11	特別支援学級	・個別の教育支援計画、個別の指導計画を本人、保護者と一緒に目標を決め、指導、支援を明確にする。また、多様な学びの場の中で個々に応じた目標を設定し、達成できるようにする。 ・自立活動を取り入れ、1つでも多く、自分自身でできることを増やす。

重点		令和5年度 主体的・対話的・深い学びのある授業づくり	
	教科	経過達成状況	今後の問題点
1	国語	小テスト・教材の工夫等を通して基礎基本の定着を行った。図書室の利用、外部機関の資料を活用し、幅広い学習活動を展開した。対話や発表、コンクールへの応募、文化祭展示、百人一首大会への取り組みを通して興味関心を高め、より深い学びにつなげた。	引き続き基礎的な内容の定着に取り組み、「主体的に深い学び」を目指していきたい。特に、読解力を高めるべく、様々な形態の文章に集中して取り組む機会を多く持てるよう、教材に応じた指導方法の工夫が必要である。
2	社会	問題集やワークシートを活用し、基礎的な知識、技能の定着を図ることができた。また、グループ学習を通して思考力、判断力、表現力を醸成する活動を行い、ICT機器を活用し、効果的、効率的な授業を展開することができた。	高校入試やチャレンジテストで、資料を活用する力が問われるようになっている。地図やグラフなどを正しく読み取ることができるように、日々の授業の中で取り組みを行っていく必要がある。
3	数学	学習プリントの活用やICTを取り入れた授業を展開し、数学的に考える力の向上を図ることができた。また、習熟度別授業や日々の計算プリントを活用し、基礎学力の定着を図ることができた。	チャレンジテストでも、数学的な言葉を用いて、説明する力が求められているため、グループ学習や言語活動にも取り組んでいけるよう問題の精選を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けられる授業を展開していく。
4	理科	実験や観察、演示実験や実物の提示など、生徒が実際に経験し主体的に取り組める活動を可能な範囲で行うことができた。また知識の定着に力を入れた。	基礎学力の定着だけでなく、応用問題に取り組む時間を確保する。長文を読みとき、記述式の問題になれるために指導していく。
5	音楽	・2学期末音楽アンケートの結果、歌うことが好きな生徒が増えたことから、自ら響き合おうとする豊かな心を育む情操教育の充実を図ることができたと考える。 ・「学習目標の提示→活動→振り返り、まとめ」という授業の流れが定着し、週1でも次の授業に繋げていることが、主体的に取り組める要因になっていると考える。	・発声練習を取り入れたことで、生徒の「美しい声」に対する意識は向上したが、男子を中心に定着するまで至っていない。今後も技能の向上を目指し、対話的な場面を増やしながら深い学びに繋がる授業の充実に取り組みたい。 ・振り返りの記入で、こまめな指導を意識しているが、感想の内容になっている生徒が居る。今後も個別対応や、継続指導を行っていく。
6	美術	基礎的な知識・技能の定着に繋がるよう、学習プリントやワークシートを用いた学習、制作を行った。またICT機器を活用し、グループ学習や鑑賞を行った。	基礎的な知識・技能の定着だけでなく、鑑賞の時間やグループワークを通して、主体的に学べる姿勢を育めるよう指導していく。また、ICT機器をより有効的に活用できるよう努める。
7	体育	基礎体力は準備運動で行うトレーニングと授業の内容において向上を図った。タブレットを活用して段階的なグループ学習にも取り組み、生徒主体の授業展開を実践した。	ここ数年の生徒の体力低下が著しく、運動習慣が少ない生徒が多くいることが課題となった。今後も運動量を多く確保し、基礎的な動きを増やしていく。また、より一層リーダーの育成に取り組み、生徒が主体となり積極的に取り組む授業を展開できるように努める。
8	技術・家庭	タブレットを活用することで視覚から得るきっかけを少しでも増やすことができた。実習を通してより興味・関心につながるきっかけとなり、知識理解にも繋がった。	生活している中で知らず知らずの間に経験し学び、触れていることに関して具体的な事例を挙げながら、より生徒自身が興味・関心を抱かれるような授業内容の改善や指導に取り組み、生徒個々の力を引き出す努力をする。
9	英語	C-NETやICT機器を用いて実用的な英語に触れるとともに、英語によるコミュニケーションをとる機会を多く取り入れた。ペアワークやグループワーク、スピーチなどの発表に力を入れ、4技能(読むこと、聞くこと、話すこと、書くこと)すべての向上を図った。	引き続き、興味関心を高める教材づくりや指導の工夫に努め、生徒が主体的に学び、英語を活用できるよう指導する。また、文と文のつながりを意識した書く指導もできるだけ多く取り入れていきたい。
10	道徳	教材を通して登場人物の気持ちに寄り添う力を育んだ。また意見交換をすることで、相互理解に努めた。	クラスの中で完結することが多いので、クラスを超えて他者の意見を知る機会をつくりたい。学級や学年の状況に応じて工夫した指導法や、評価方法を次年度に引き継いでいきたい。
11	特別支援学級	・個別の教育支援計画、個別の指導計画を全教職員が見れるようにし、それをもとに指導、支援を明確にすことができた。また、多様な学びの場の中で個々に応じた目標を設定することができた。 ・自立活動を個々に応じておおまか実施することができた。	・個々に応じた目標を設定したが、達成できていない生徒もいるので達成できるように細かく目標を設定する必要がある。 ・自立活動を積極的に取り入れることができているが、個々に応じて具体的に考える必要があり、生徒自身が身につけたいことをサポートできるようにする。

